

# 2014年3月期 第2四半期決算説明会資料

2013.11.14

 三信電気株式会社

代表取締役社長 松永 光正

(証券コード:8150)

## ※ 資料取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であって、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因として主なものは以下の通りです。

- 日本・北米・アジア等の経済情勢、消費動向
- 販売先の生産動向や製品開発
- 仕入先の供給状況や製品開発
- 競争激化による価格下落
- 為替相場的大幅な変動等

# I . 2014年3月期 第2四半期業績概要

- 売上高は前年同期比40%の増加（TOY分野 ▲7%、TOY分野以外 +61%）
- 営業利益/経常利益/四半期純利益とも売上高の増加により大幅な増益

	13/3期 第2四半期 累計実績	14/3期 第2四半期 累計実績	前年 同期比	※ 当初予想	達成率
売上高	690.1	963.7	140%	800.0	120%
売上総利益	7.3% 50.7	6.2% 59.4	117%	6.9% 55.3	107%
販管費	6.4% 44.5	4.9% 47.5	107%	6.1% 48.8	97%
営業利益	0.9% 6.2	1.2% 11.8	191%	0.8% 6.5	182%
経常利益	0.9% 6.4	1.3% 12.2	190%	0.8% 6.5	188%
四半期純利益	0.5% 3.4	0.8% 7.8	229%	0.5% 4.0	194%
換算レート (1米ドル)	¥79.42	¥98.85	増減 + ¥19.43	¥90.00	増減 + ¥8.85

※①第2四半期累計:4月1日~9月30日

※②当初予想は平成25年5月15日(2013年3月期決算短信)に発表した予想数値

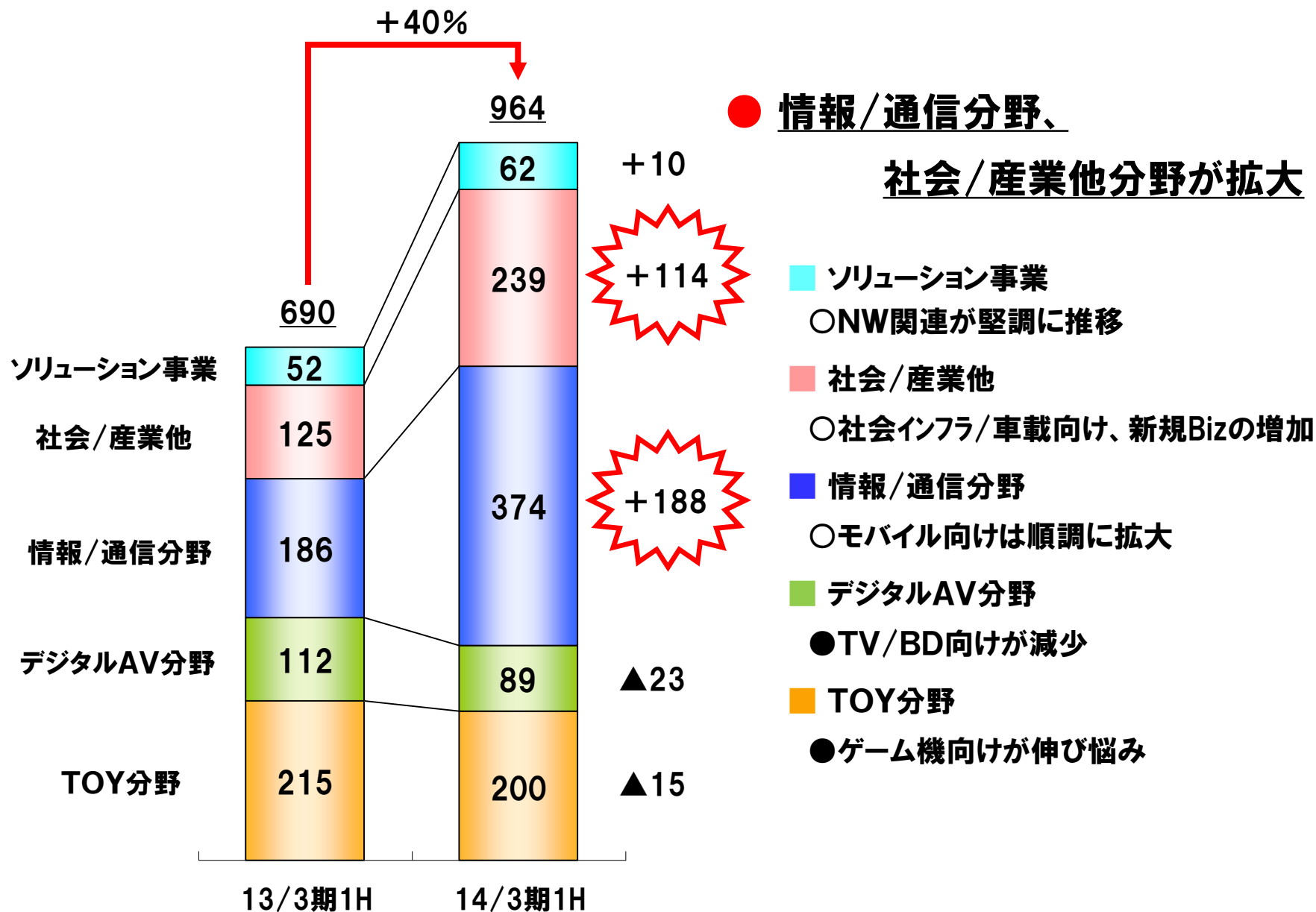
- デバイス事業は、売上高の増加によりセグメント利益は前年同期比302%の増加  
→モバイル向け、新規ビジネス、円安に伴う為替換算などにより売上高が拡大
- ソリューション事業は、売上高増加によりセグメント利益は前年同期比9%の増加  
→NW、公共、組み込みシステム、APソフトとも堅調に推移

		13/3期 第2四半期 累計実績	14/3期 第2四半期 累計実績	前期比	※ 当初予想	達成率
デバイス 事業	売上高	638.4	902.2	141%	750.0	120%
	セグメント利益	0.3% 1.8	0.8% 7.2	402%	0.5% 3.5	204%
ソリューション 事業	売上高	51.7	61.5	119%	50.0	123%
	セグメント利益	8.9% 4.6	8.2% 5.0	109%	6.0% 3.0	168%
換算レート (1米ドル)		¥79.42	¥98.85	増減 + ¥19.43	¥90.00	増減 + ¥8.85

※①セグメント利益は、管理部門に関わる費用などを14年3月期より全額各事業に配賦しており、13年3月期第2四半期累計実績も同一の配賦基準に変更し記載しております

※②第2四半期累計:4月1日~9月30日

※③当初予想は平成25年5月15日(2013年3月期決算短信)に発表した予想数値



## Ⅱ. 2014年3月期

# 通期業績予想

- 通期売上高は前期比24%の増加（前年同期比:上期 +40%、下期 +10%）
- 通期営業利益/経常利益/当期純利益は、売上高の増加により増益を見込む

	11/3期 実績	12/3期 実績	13/3期 実績	14/3期 予想	前期比	※ 当初予想	達成率
売上高	1,826.7	1,441.6	1,479.6	1,830.0	124%	1,700.0	108%
売上総利益	6.3% 115.7	7.2% 104.4	7.5% 110.6	6.5% 119.1	108%	7.0% 118.4	101%
販管費	5.1% 94.0	6.5% 94.3	6.1% 90.3	5.3% 97.1	108%	5.8% 98.4	99%
営業利益	1.2% 21.6	0.7% 10.1	1.4% 20.3	1.2% 22.0	108%	1.2% 20.0	110%
経常利益	1.2% 22.6	0.6% 8.0	1.1% 16.3	1.3% 23.0	141%	1.2% 20.0	115%
当期純利益	0.8% 14.5	0.4% 5.2	0.8% 11.3	0.8% 15.5	137%	0.8% 14.0	111%
連結ROE	2.4%	0.9%	1.9%	2.6%	増減 +0.7P	2.3%	増減 +0.3P
換算レート (1米ドル)	¥85.72	¥79.07	¥83.11	¥97.00	増減 +¥13.89	¥90.00	増減 +¥7.00

※①1H:4月1日～9月30日、2H:10月1日～3月31日

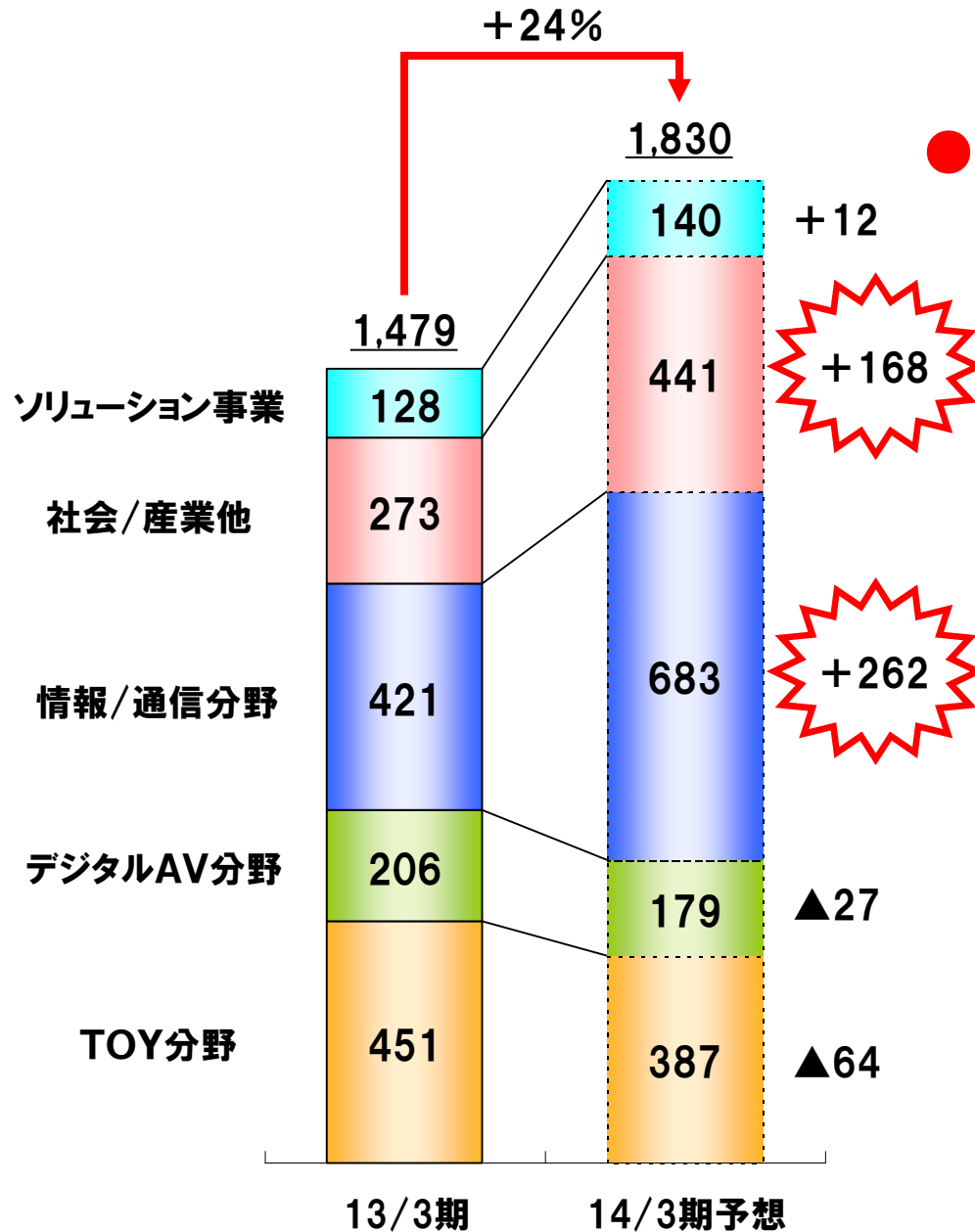
※②当初予想は平成25年5月15日(2013年3月期決算短信)に発表した予想数値



- デバイス事業は増収増益も回復途上、更なる収益改善を図る
- ソリューション事業は売上高の増加によりセグメント利益は前期比微増を見込む

		11/3期 実績	12/3期 実績	13/3期 実績	14/3期 予想	前期比	※ 当初予想	達成率
デバイス 事業	売上高	1,708.6	1,331.3	1,351.1	1,690.0	125%	1,570.0	108%
	セグメント利益	0.9% 15.9	-0.1% -0.7	0.3% 4.7	0.7% 11.0	236%	0.6% 10.0	110%
ソリューション 事業	売上高	118.1	110.3	128.5	140.0	109%	130.0	108%
	セグメント利益	5.7% 6.7	7.9% 8.7	9.0% 11.6	8.6% 12.0	103%	7.7% 10.0	120%
換算レート (1米ドル)		¥85.72	¥79.07	¥83.11	¥97.00	増減 + ¥13.89	¥90.00	増減 + ¥7.00

- ※①セグメント利益は、管理部門に関わる費用などを14年3月期より全額各事業に配賦しており、11年3月期～13年3月期実績も同一の配賦基準に変更し記載しております
- ※②1H:4月1日～9月30日、2H:10月1日～3月31日
- ※③当初予想は平成25年5月15日(2013年3月期決算短信)に発表した予想数値



● 上期と同様に情報/通信分野、社会/産業他分野の拡大を見込む

■ ソリューション事業

○ NW関連が堅調に推移

■ 社会/産業他

○ 社会インフラ/車載向け、新規Bizの増加

■ 情報/通信分野

○ モバイル向けは下期減少も通期で拡大

■ デジタルAV分野

● 上期に引き続きTV/BD向けが減少

■ TOY分野

● 上期に引き続きゲーム機向けが伸び悩み

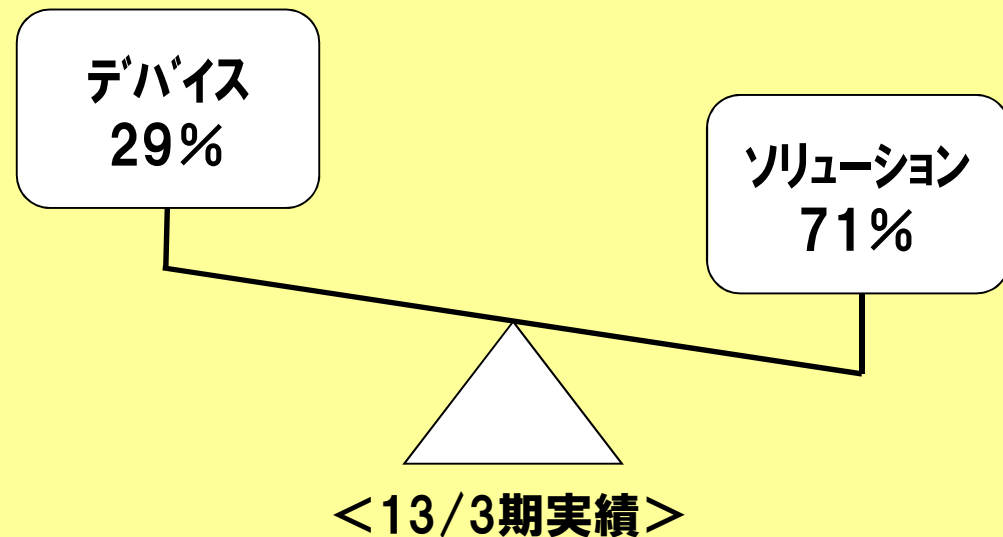
# Ⅲ. 經營方針／重点課題

新たな視点 & 取り組みを導入し、強い収益体質を構築する

当社グループの状況

<セグメント利益>

- ソリューション事業がデバイス事業を上回る
- デバイス事業は特定分野減少による収益低迷
- ソリューション事業は着実に収益構造を改善



今後の経営方針

デバイス事業の  
収益基盤の立て直し

ソリューション事業の  
安定した収益確保

※上記セグメント利益の構成比は、管理部門に関わる費用などを14年3月期と同一の基準を採用して配賦し算出しております。

課題／取り組みの内容

仕入先別売上高比率

課題

**製品ラインナップの拡充**

既存大手仕入先が製品の選択と集中を加速させているなか、海外メーカーをはじめとする新規仕入先を拡充することで製品ラインナップを強化することが必要。

他仕入先  
39%

ルネサス  
61%

<13/3期実績>

取り組み

◆海外メーカー(欧米、アジア)を中心に順調に拡大。今期は230億円(前期比232%)の売上高を見込む。これらを含むルネサス以外の仕入先全体では808億円(同151%)を予想。

◇今後も新規仕入先開拓の継続強化、既存大手仕入先が傾注する製品の拡販強化に取り組む。

他仕入先  
48%

ルネサス  
52%

<14/3期予想>

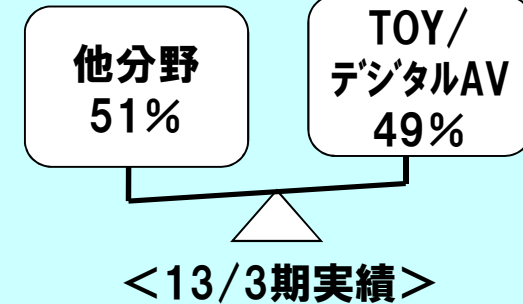
課題／取り組みの内容

分野別売上高比率

課題

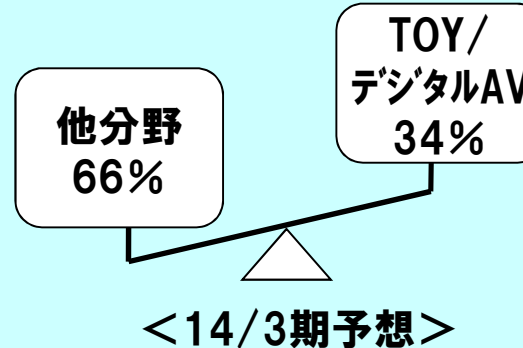
成長分野(社会／産業、情報／通信分野等)への拡販強化

半導体／電子部品市場のけん引役がモバイルやスマート社会、自動車関連にシフトするなか、こうした成長分野向けの拡販にさらに注力することが必要。



取り組み

- ◆当分野向けの販売体制を整備し(12年10月～)、当分野向けの仕入先開拓を強化。
- ◆今期の当分野向け売上高は1,124億円(前期比161%)を見込む。
- ◇今後も新規仕入先製品の投入、海外市場(特に中国)への拡販に向けた現地デザイン・イン機能強化(=現地社員の育成)に注力。



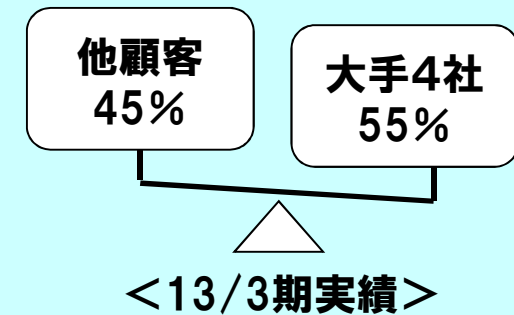
課題／取り組みの内容

顧客別売上高比率

課題

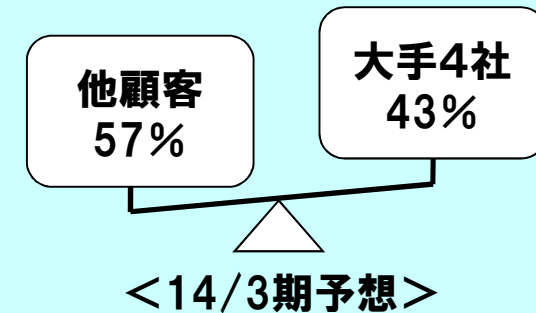
**顧客層の拡大**

大手顧客の業績や特定分野の市場環境に左右されないよう幅広い顧客層を構築することが収益の安定化には必要。



取り組み

- ◆海外顧客への拡販強化(中堅・若手社員の積極的な海外登用)。
- ◆国内では中小・中堅顧客への深耕を集中的に行う営業本部を設置(12年10月～)。
- ◆大手顧客4社以外の売上高は今期971億円(前期比158%)を見込む。
- ◇今後も新たなビジネススキームの水平展開、海外の現地販売チャネルの活用により顧客拡大に注力。

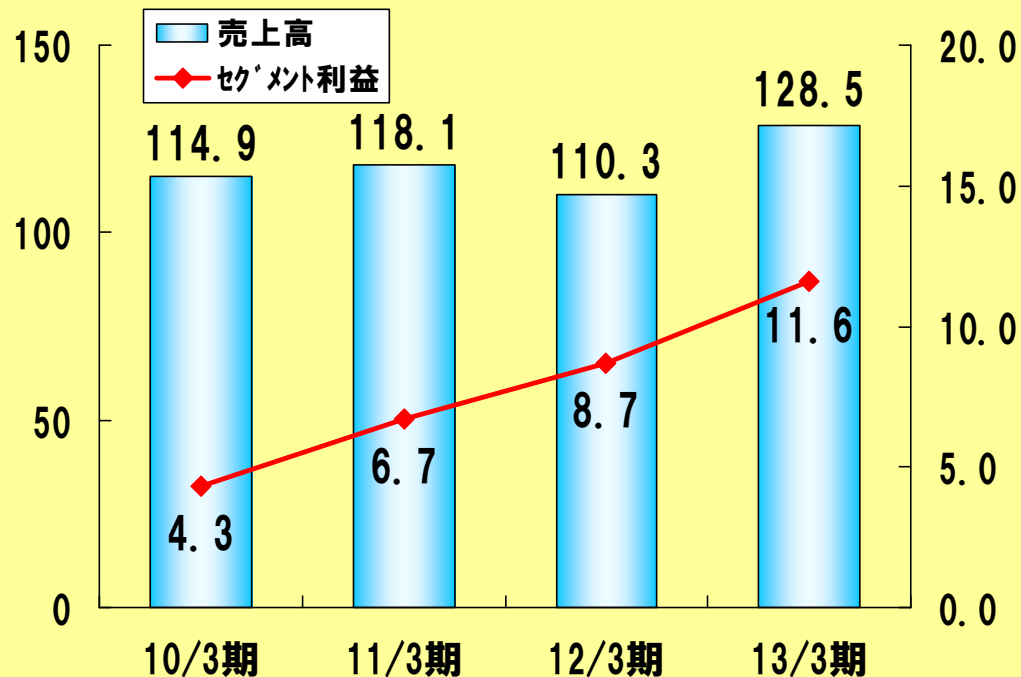


## ソリューション事業の状況

## 14/3期予想

&lt;売上高/セグメント利益推移&gt;

※単位:億円



保守／サポートなどのストック・ビジネスの着実な伸長によりセグメント利益は増加基調。

売上高:  
140.0億円(前期比:109%)

セグメント利益:  
12.0億円(前期比:103%)

◆14/3期も前期比増収増益を見込み、セグメント利益の増加基調は継続

◆今後はさらなる収益基盤の強化に注力

※セグメント利益は、管理部門に関わる費用などを14年3月期より 全額各事業に配賦しており、10年3月期～13年3月期実績も同一の配賦基準に変更し記載しております



## 1. ストック・ビジネスの源泉となるハード/システム販売の拡大

### ①各ビジネスユニットで拡販を強化 ⇒ 幅広い分野で収益基盤を構築

NW	キーアカウントの深耕
公共	官公庁向けの深耕、消防防災の需要取り込み
組み込みシステム	顧客密着による新規ビジネスの発掘
APソフト	オープン化・パッケージ化・クラウド化対応の強化
映像	システム案件の着実な受注、新規IPTV市場の開拓

※APソフト:アプリケーションソフト

### ②仕入先、協業パートナーとの連携強化

## 2. ハード/システム販売後の保守/サポートサービスの確実な受注

- ①顧客ニーズを捉えた新サポートメニューの創造
- ②三信オリジナルメニューによる水平展開、協業パートナーとの連携強化
- ③技術資格の取得推進による技術力UP

# IV. 財務状況

	13年3月末 実績 A	13年9月末 実績 B	B - A 増減 (13/3対比)	14年3月末 予想 C	C - A 増減 (13/3対比)
現預金	111.6	146.7	35.1	170.9	59.3
売掛債権	388.4	606.8	218.3	489.6	101.1
棚卸資産	227.0	140.5	△ 86.5	152.5	△ 74.5
その他資産	102.0	87.0	△ 15.0	87.0	△ 15.0
資産合計	829.2	981.0	151.9	900.0	70.8
買掛債務	168.0	298.0	130.0	216.6	48.6
有利子負債	33.6	50.5	16.9	50.5	16.9
その他負債	28.5	24.0	△ 4.5	24.0	△ 4.5
純資産合計	599.2	608.7	9.5	609.0	9.9
負債・純資産合計	829.2	981.0	151.9	900.0	70.8
自己資本比率	72.3%	62.0%	△10.3P	67.7%	△4.6P

	13年3月期 実績	14年3月期予想		
		1H実績	2H予想	通期予想
売上債権の減少(△は増加)	21.1	△ 213.1	112.0	△ 101.1
棚卸資産の減少(△は増加)	△ 55.2	87.7	△ 13.2	74.6
仕入債務の増加(△は減少)	△ 1.0	127.2	△ 78.6	48.6
その他	0.3	20.3	8.4	28.7
営業C/F	△ 34.8	22.1	28.6	50.8
投資C/F	7.6	1.6	△ 0.6	1.0
財務C/F	△ 16.6	10.3	△ 2.8	7.5
換算差額	2.9	1.1	△ 1.1	
現預金の増減額	△ 40.9	35.1	24.2	59.3
新規連結に伴う現預金の増加	0.2			
現預金の期末残高	111.6	146.7	170.9	170.9

※1H:4月1日～9月30日、2H:10月1日～3月31日

	10/3期 実績	11/3期 実績	12/3期 実績	13/3期 実績	14/3期 予想
①連結当期純利益	1,340百万円	1,448百万円	516百万円	1,131百万円	1,550百万円
②包括利益	1,223百万円	637百万円	492百万円	2,035百万円	—
③連結自己資本比率	68.6%	64.5%	73.5%	72.3%	67.7%
④配当総額 (1株当り配当)	605百万円 (20円)	605百万円 (20円)	595百万円 (20円)	580百万円 (20円)	564百万円 (20円)
⑤連結配当性向	45.2%	41.8%	117.0%	51.7%	36.4%
⑥自己株式取得総額 (取得株式数)	—	—	766百万円 (1,000千株)	321百万円 (500千株)	未定 ※5
⑦総還元性向(④+⑥)÷①	45.2%	41.8%	263.9%	79.7%	未定
⑧自己株式消却	1,702千株	—	—	—	未定
⑨期末発行済株式総数 (自己株式除く)	30,281千株 (30,280千株)	30,281千株 (30,280千株)	30,281千株 (29,280千株)	30,281千株 (28,779千株)	未定
⑩1株当たり当期純利益	44.28円	47.81円	17.10円	38.67円	55.00円
⑪1株当たり純資産	1,967.08円	1,968.14円	2,005.34円	2,081.88円	2,161.20円

- ※1. 自己株式取得株式数には単元未満株式の買取請求に伴う取得分は含まれておりません。
2. 1株当り当期純利益は期中平均発行済株式数(自己株式除く)で算出しております。
3. 1株当り純資産は期末発行済株式総数(自己株式除く)で算出しております。
4. 14/3期予想における1株当り当期純利益および1株当り純資産は13年9月末発行済み株式総数(自己株式除く)で算出しております。
5. 当社は当期中に60万株の自己株式取得(366百万円)を実施しております。

## ●基本方針

- 利益還元の拡大と内部留保の充実

## ●14年3月期 配当予想

- 連結業績は増収増益の見通し、安定的な配当の実施を重視
- 前期と同額の1株当たり20円（中間、期末各10円）
- 連結配当性向 36.4%
- 10年3月期～14年3月期平均連結配当性向 49.3%

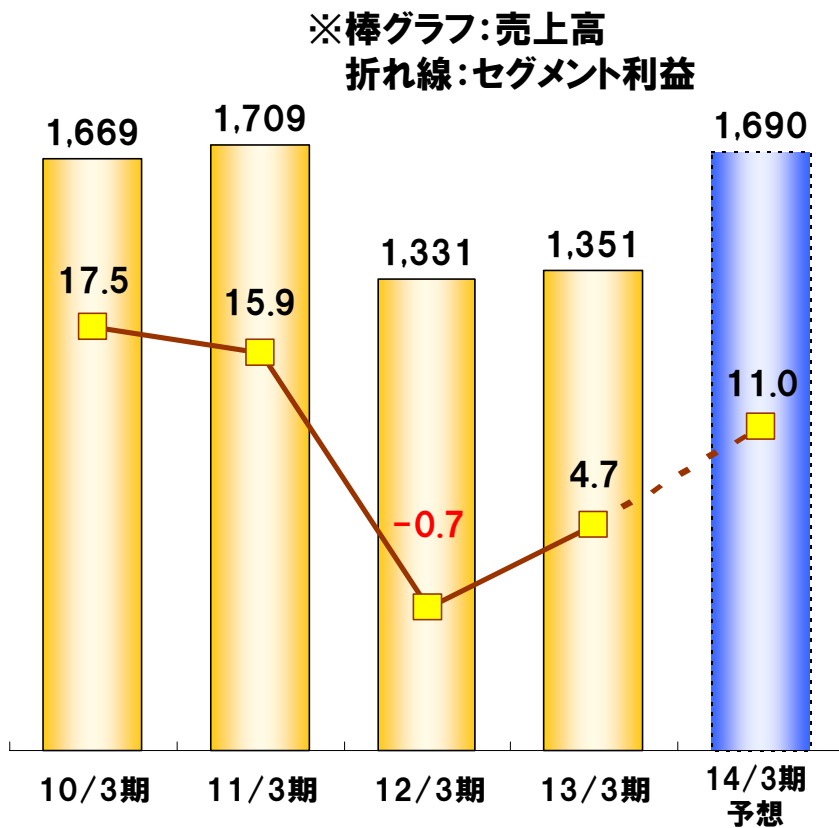
## 補足資料①

# 2014年3月期

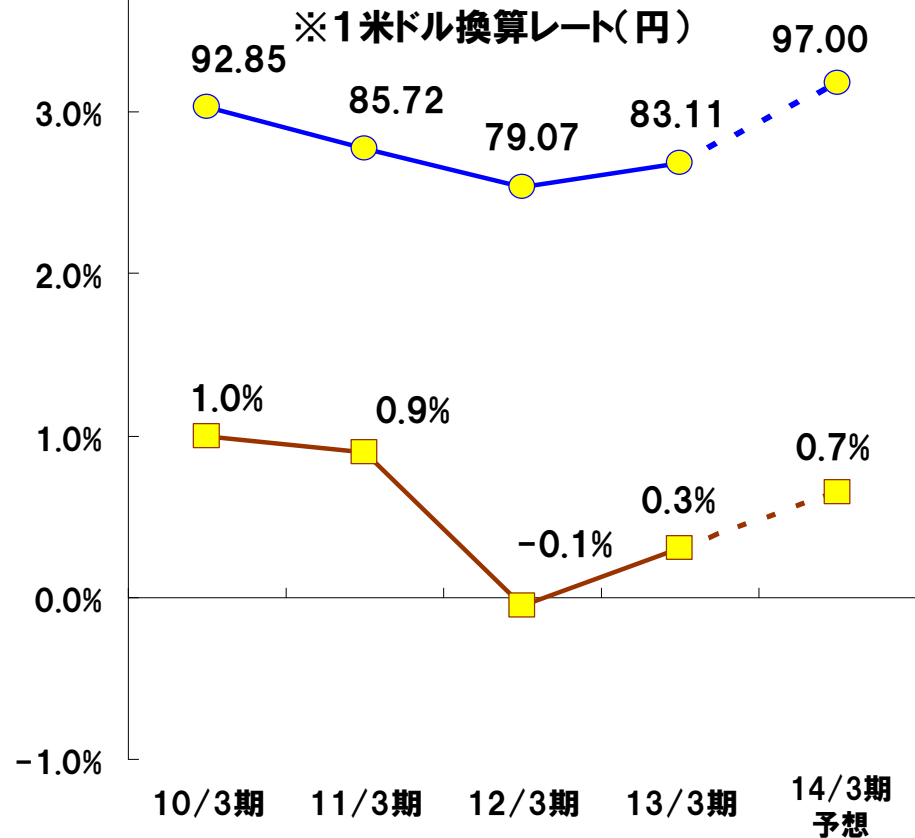
# デバイス事業業績予想

■ 14年3月期予想は、売上高前期比25%増、セグメント利益前期比136%増  
 →モバイル向けの拡大、新規ビジネスの立ち上がりによる売上高の増加を見込む

売上高・セグメント利益



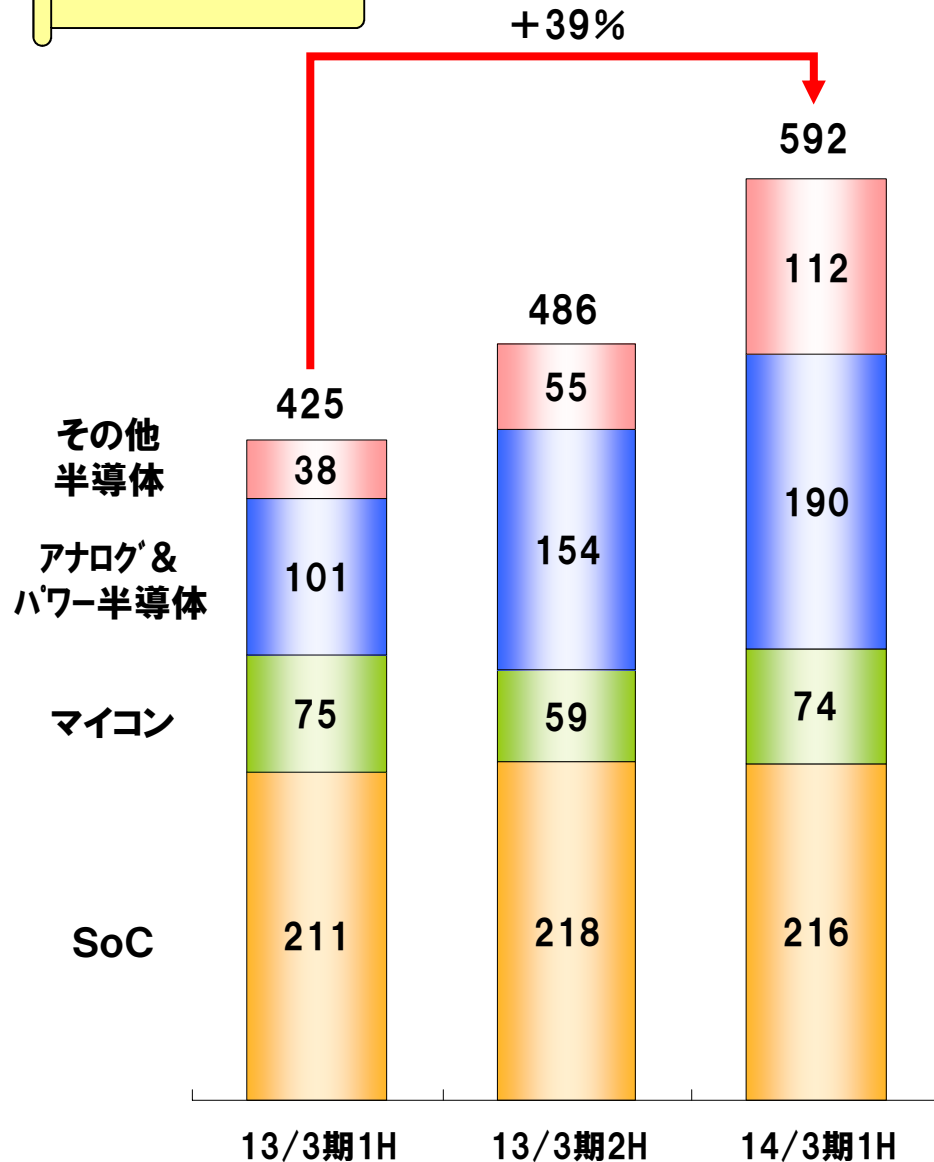
セグメント利益率



※セグメント利益は、管理部門に関わる費用などを14年3月期より全額各事業に配賦しており、10年3月期～13年3月期実績も同一の配賦基準に変更し記載しております



半期売上高

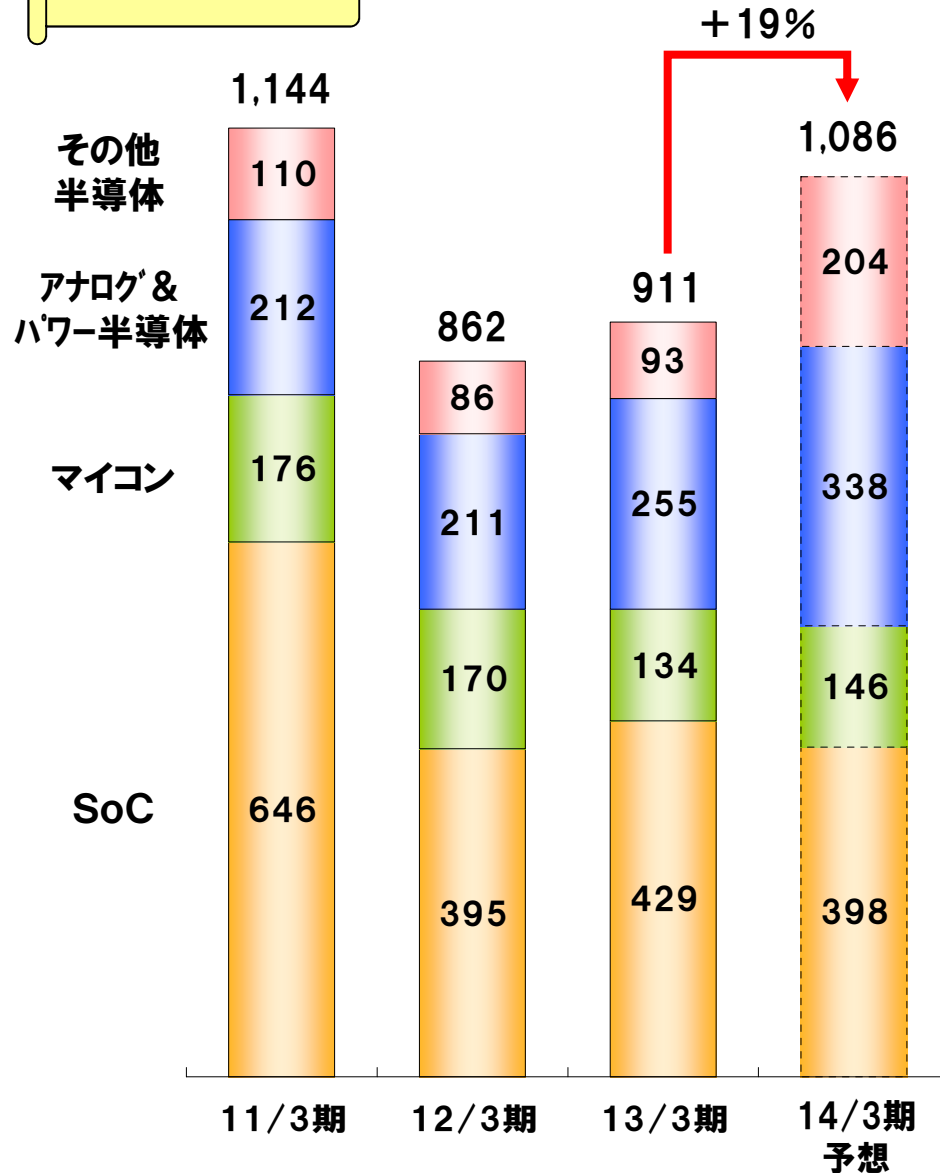


【前年同期比増減内容】

- SoC(システムLSI)
  - ゲーム機向けは増加
  - デジタルAV向けが減少
- マイコン
  - 車載/白物家電向けは増加
  - デジタルAV/ゲーム機向けが減少
- アナログ&パワー半導体
  - モバイル向けは増加
  - 大型液晶パネル向けが減少
- その他半導体
  - モバイル/HDD/新規ビジネス向けが増加

	14年3月期1H実績	
	13/3期1H比	13/3期2H比
SoC	+2%	▲1%
マイコン	▲1%	+26%
アナログ&P半	+87%	+23%
その他半導体	+194%	+103%

通期売上高

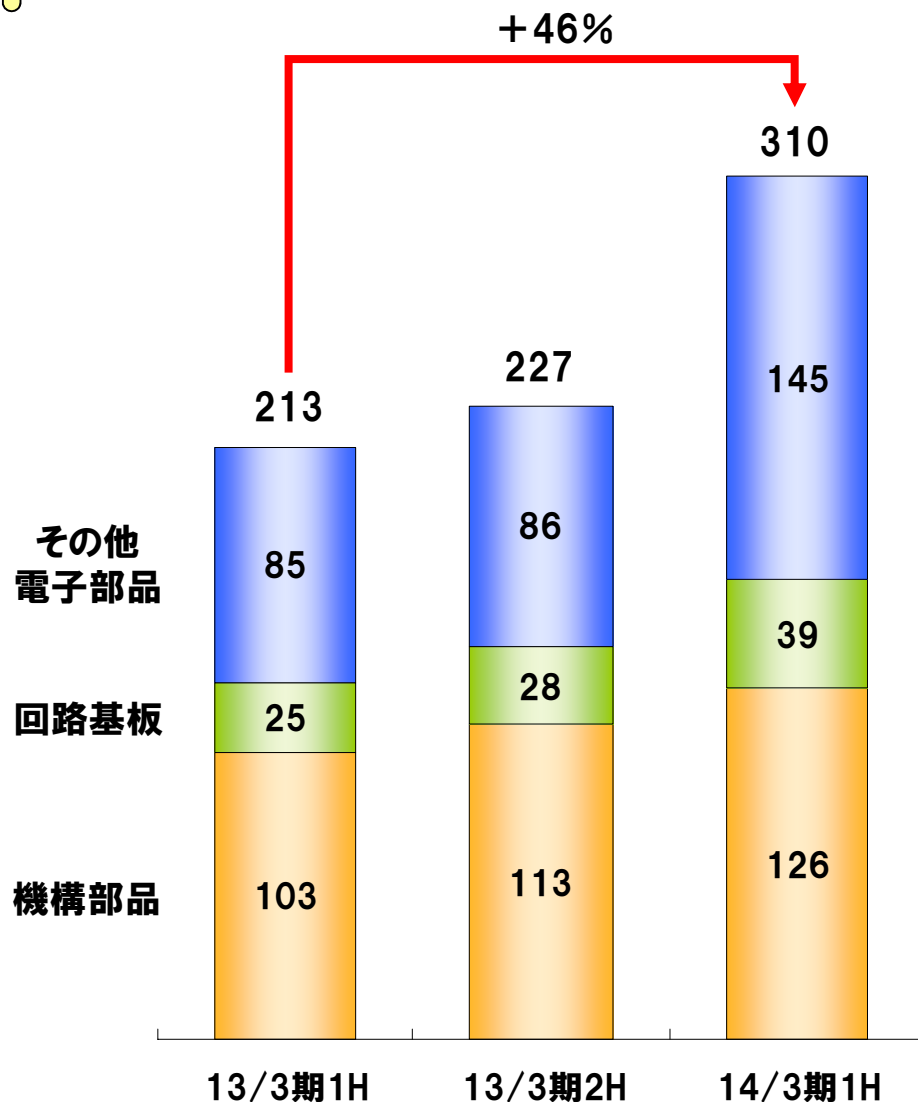


【前期比増減内容】

- SoC(システムLSI)
  - ゲーム機/デジタルAV向けが減少
- マイコン
  - 車載/白物家電向けは増加
  - ゲーム機向けが減少
- アナログ&パワー半導体
  - モバイル向けは増加
  - デジタルAV/大型液晶パネル向けが減少
- その他半導体
  - モバイル/HDD/新規ビジネス向けが増加

	前期比
SoC	▲7%
マイコン	+9%
アナログ&P半	+32%
その他半導体	+118%

半期売上高

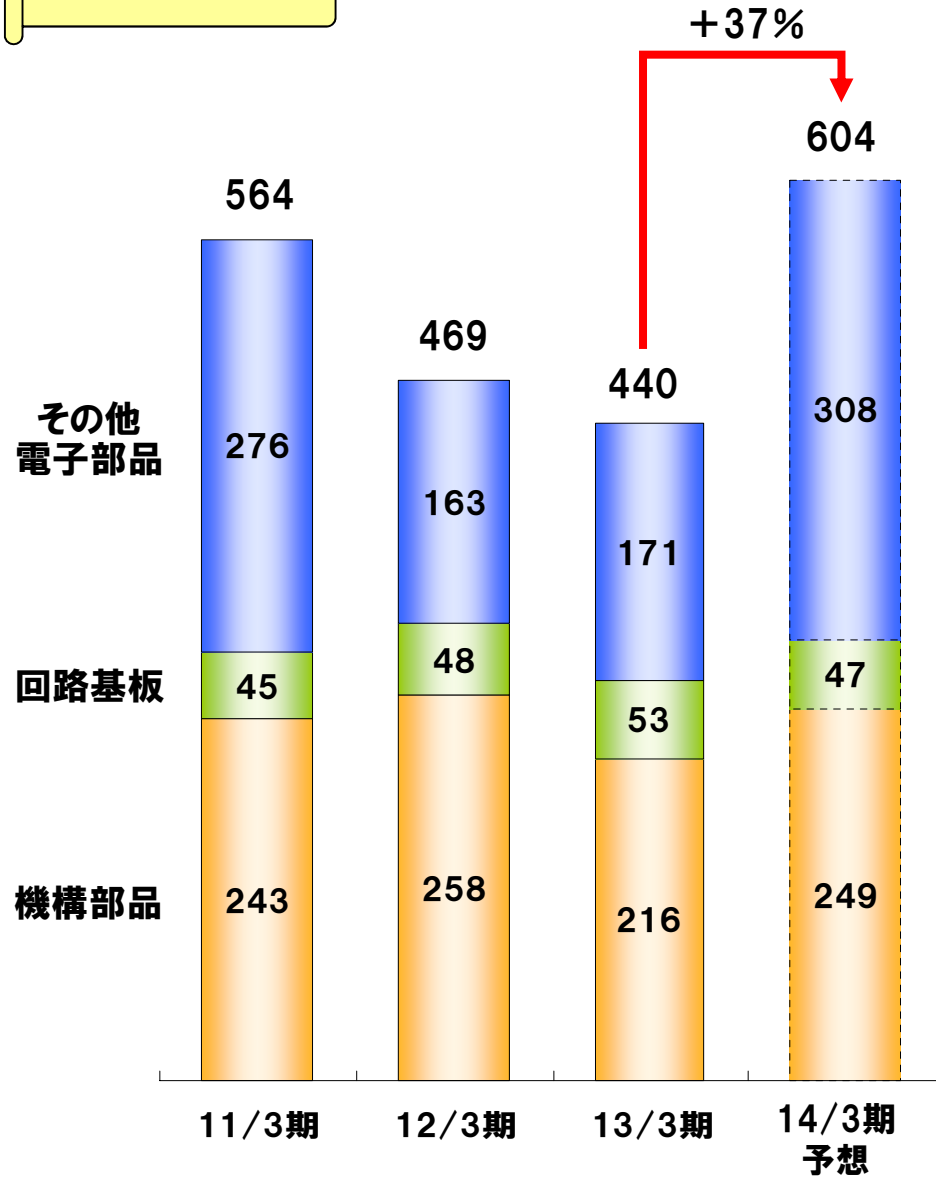


【前年同期比増減内容】

- 機構部品
  - モバイル/PC向けが増加
- 回路基板
  - モバイル向けが増加
- その他電子部品
  - 素材、新規ビジネスは大幅に増加

	14年3月期1H実績	
	13/3期1H比	13/3期2H比
機構部品	+22%	+13%
回路基板	+54%	+42%
その他	+72%	+67%

通期売上高

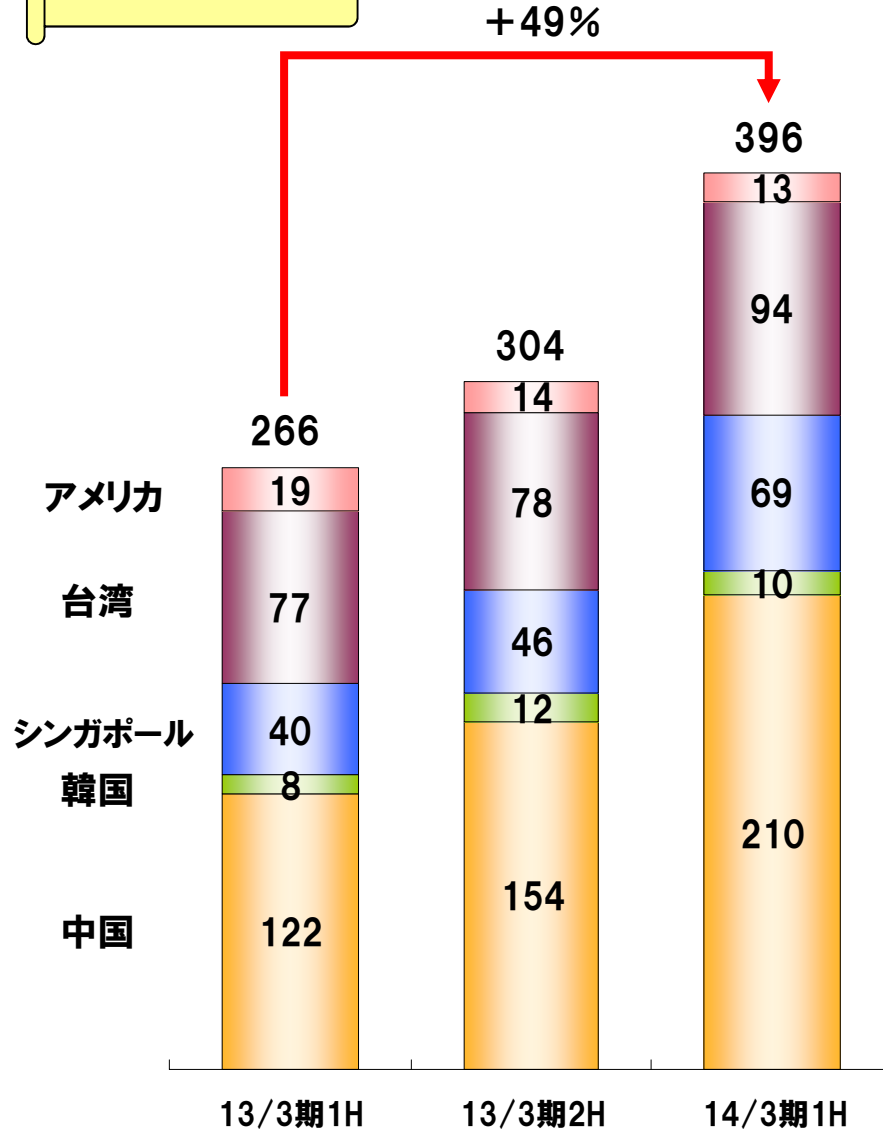


【前期比増減内容】

- 機構部品
  - モバイル/PC向けが増加
- 回路基板
  - 通期ではモバイル向けが減少
- その他電子部品
  - 素材、新規ビジネスは大幅に増加

	前期比
機構部品	+15%
回路基板	▲11%
その他	+80%

半期売上高

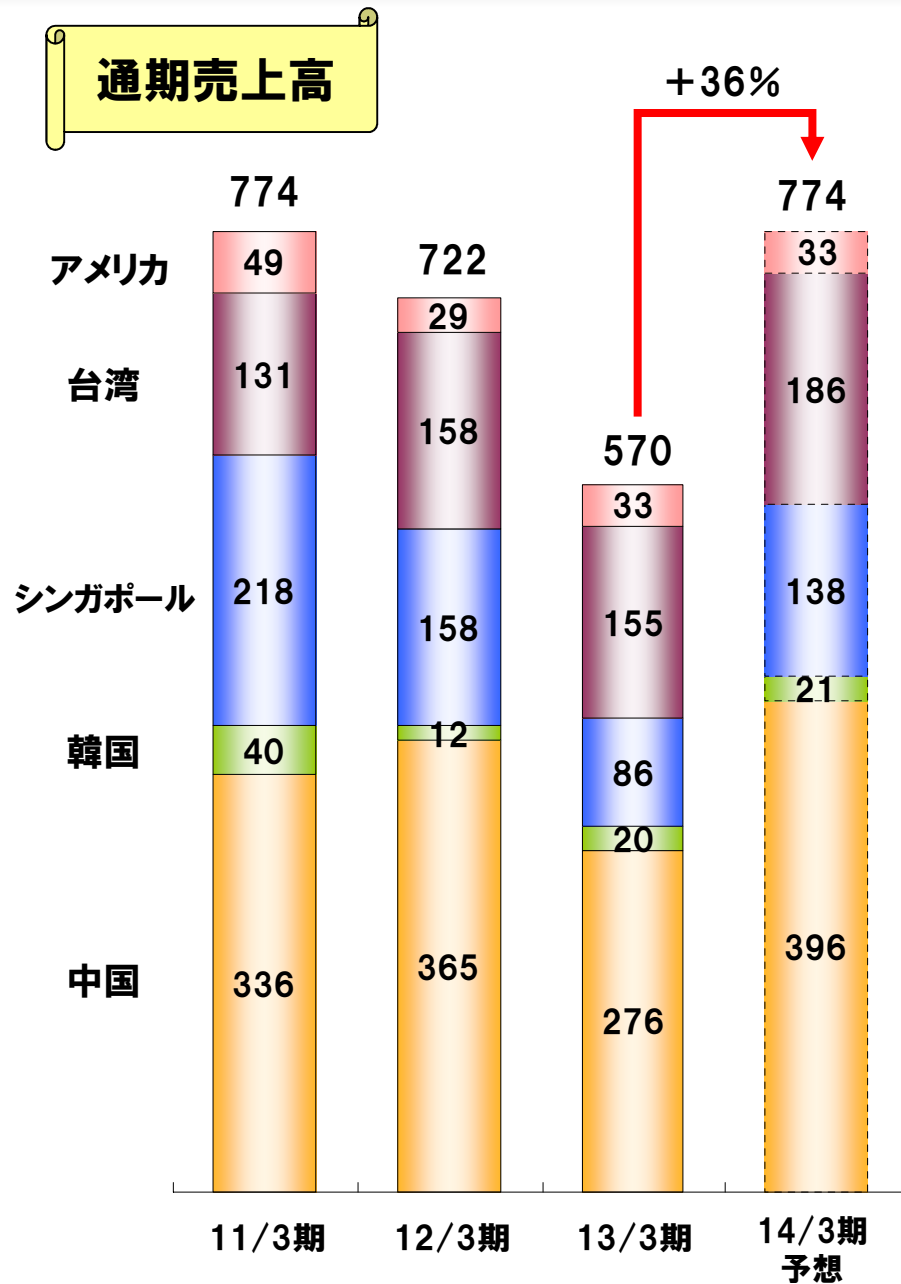


【前年同期比増減内容】

- 中国
  - モバイル/HDD向け、新規ビジネスが増加
- 韓国
  - PC(ディスプレイ)向けが増加
- シンガポール(含むタイ)
  - デジタルAV/HDD向けが増加
  - 14/3月期より三信タイを連結化
- 台湾
  - ゲーム機/デジタルAV/モバイル向けが増加
- USA
  - 無線関連IC、メモリ等の新規ビジネスが減少

	14年3月期1H実績	
	13/3期1H比	13/3期2H比
中国	+71%	+36%
韓国	+32%	▲18%
シンガポール	+73%	+50%
台湾	+23%	+22%
アメリカ	▲33%	▲11%

通期売上高



【前期比増減内容】

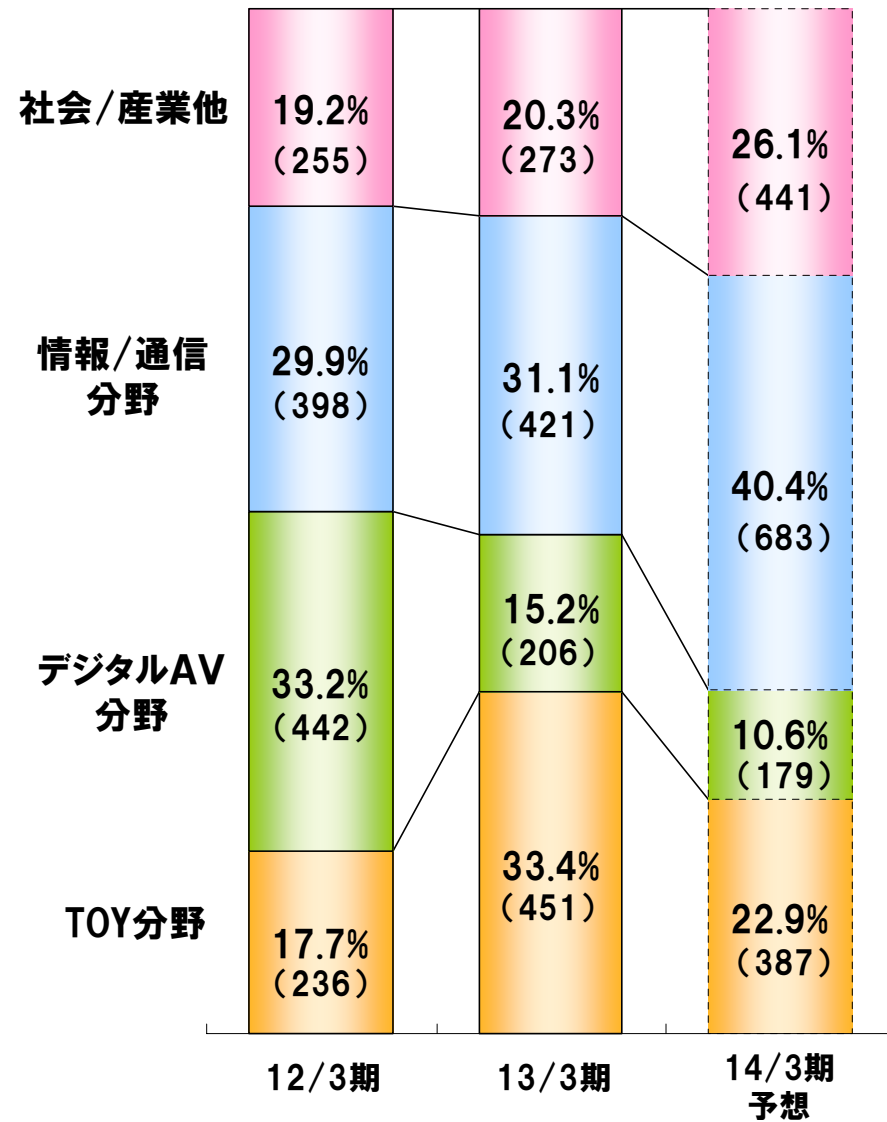
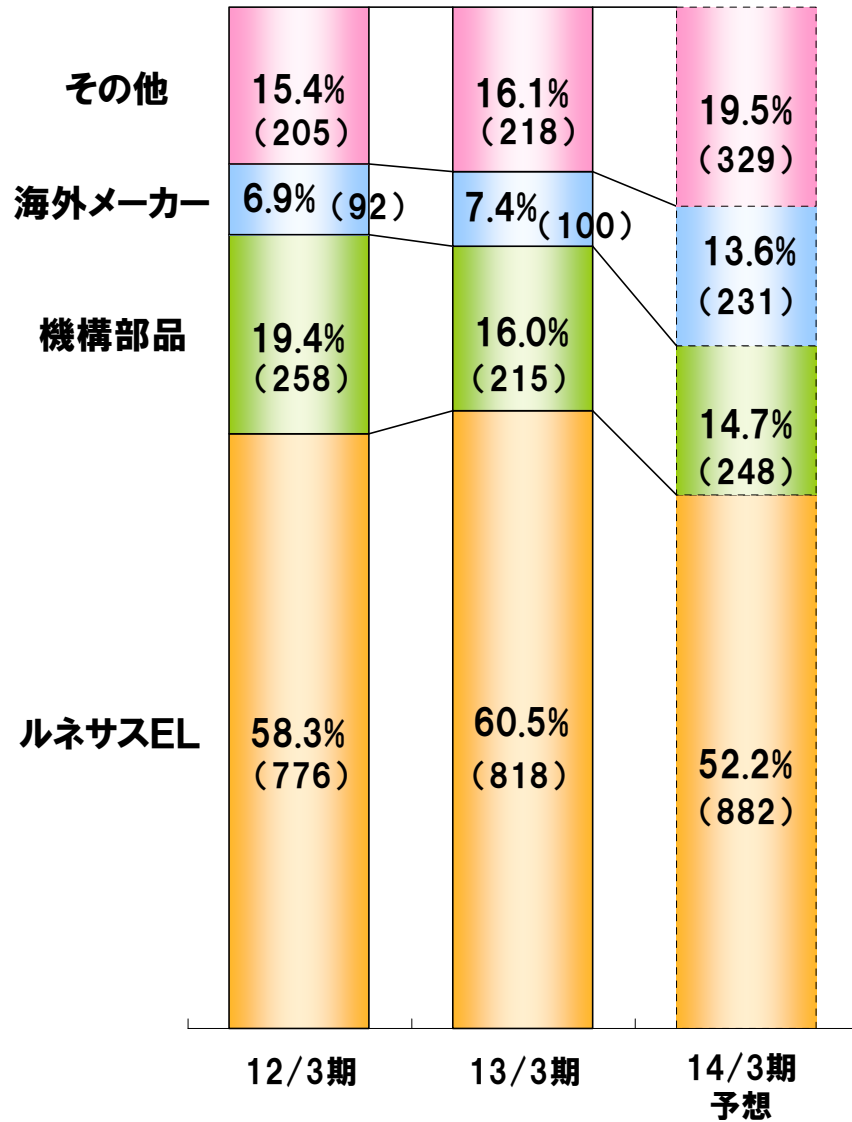
- 中国
  - モバイル/デジタルAV向け、新規ビジネスが増加
- 韓国
  - PC(ディスプレイ)向けが増加
- シンガポール(含むタイ)
  - デジタルAV/HDD向けが増加
  - 14/3月期より三信タイを連結化
- 台湾
  - モバイル/デジタルAV/ゲーム機向けが増加
- USA
  - 無線関連IC、メモリ等の新規ビジネスが減少

	前期比
中国	+43%
韓国	+9%
シンガポール	+61%
台湾	+20%
アメリカ	▲3%

製品別売上高構成比

※ ( )は売上高、億円

分野別売上高構成比



## 補足資料②

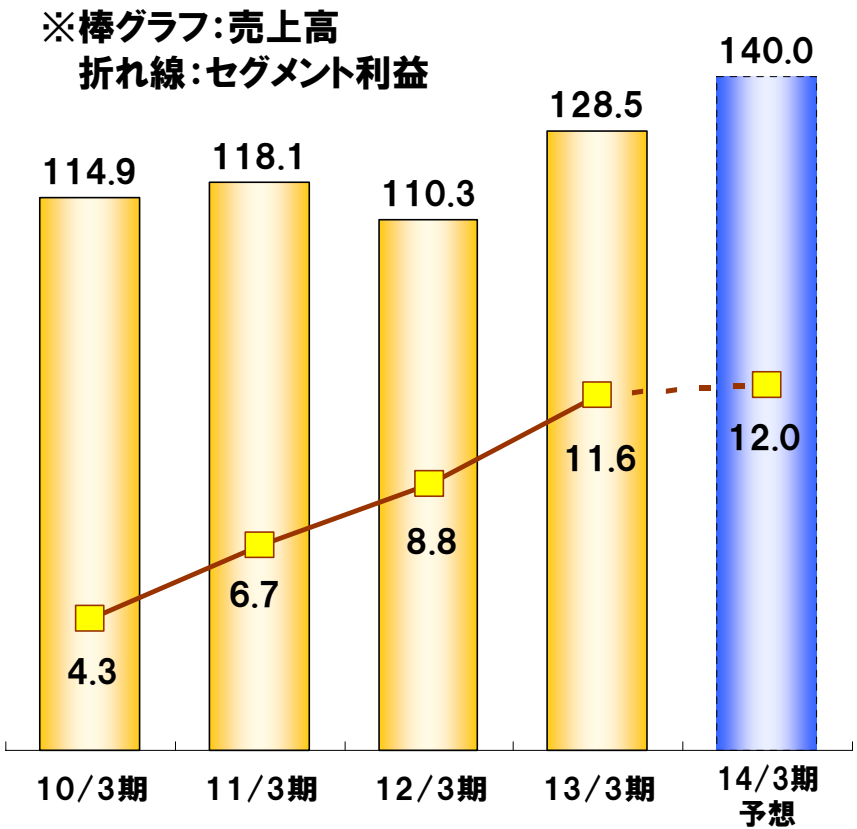
# 2014年3月期

# ソリューション事業業績予想

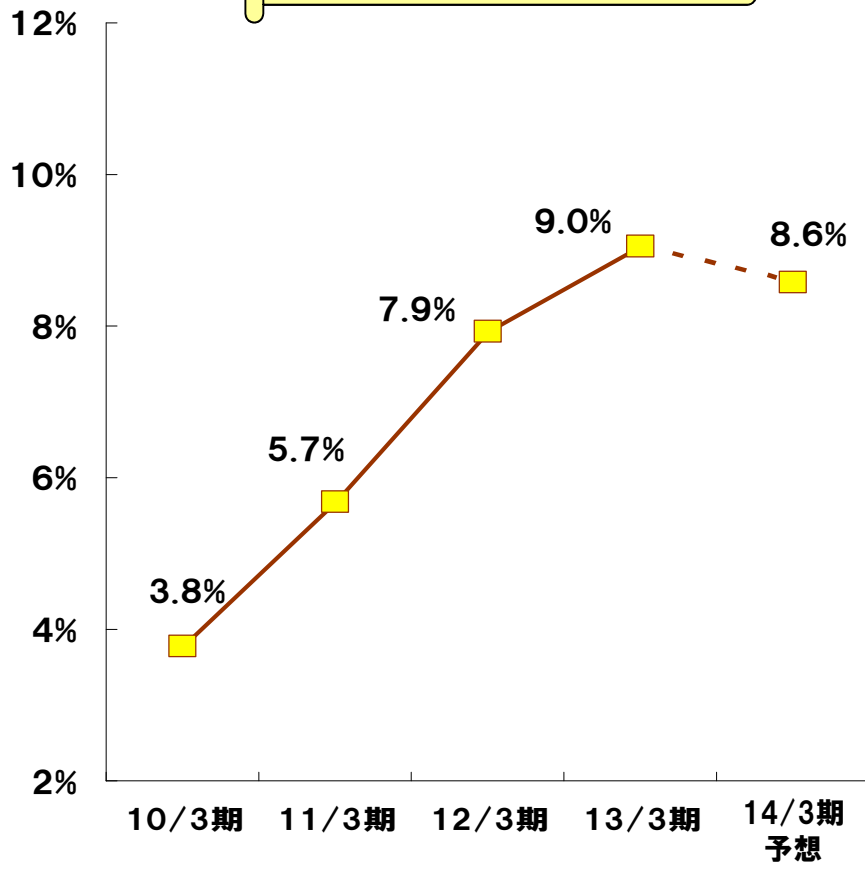


■ 14年3月期予想は、売上高前期比9%増、セグメント利益は前期比微増  
 →セグメント利益率は下がるものの前期比増収増益を見込む

売上高・セグメント利益



セグメント利益率

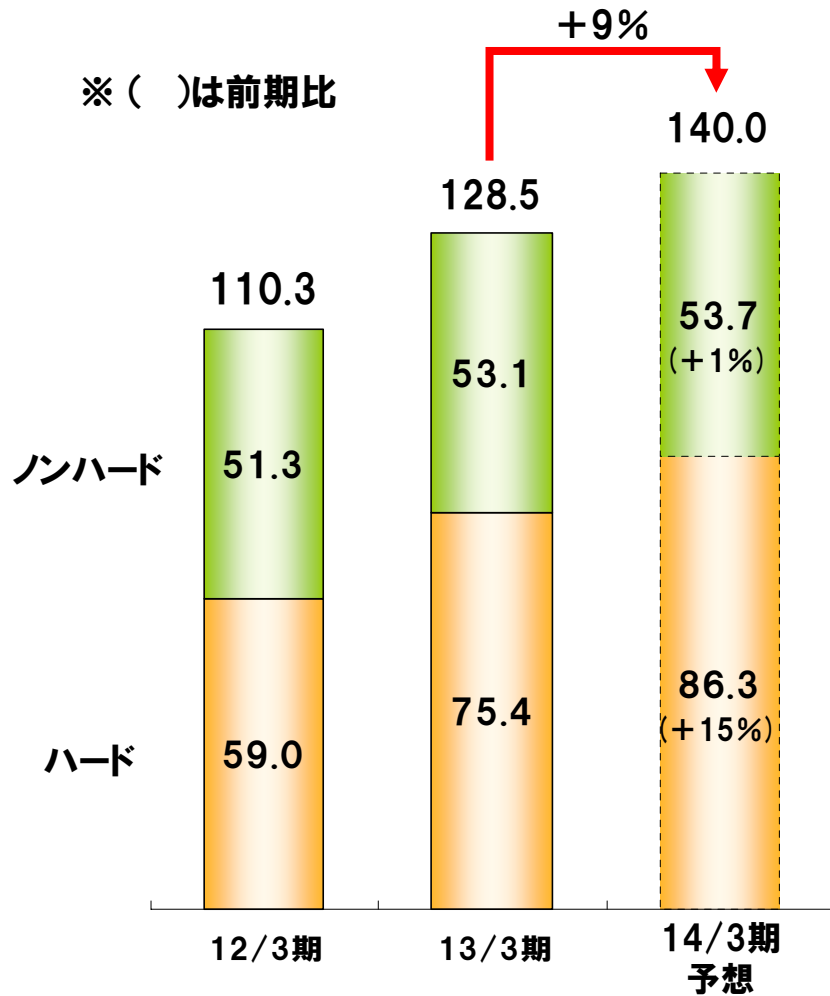


※セグメント利益は、管理部門に関わる費用などを14年3月期より全額各事業に配賦しており、10年3月期～13年3月期実績も同一の配賦基準に変更し記載しております

品目別売上高推移

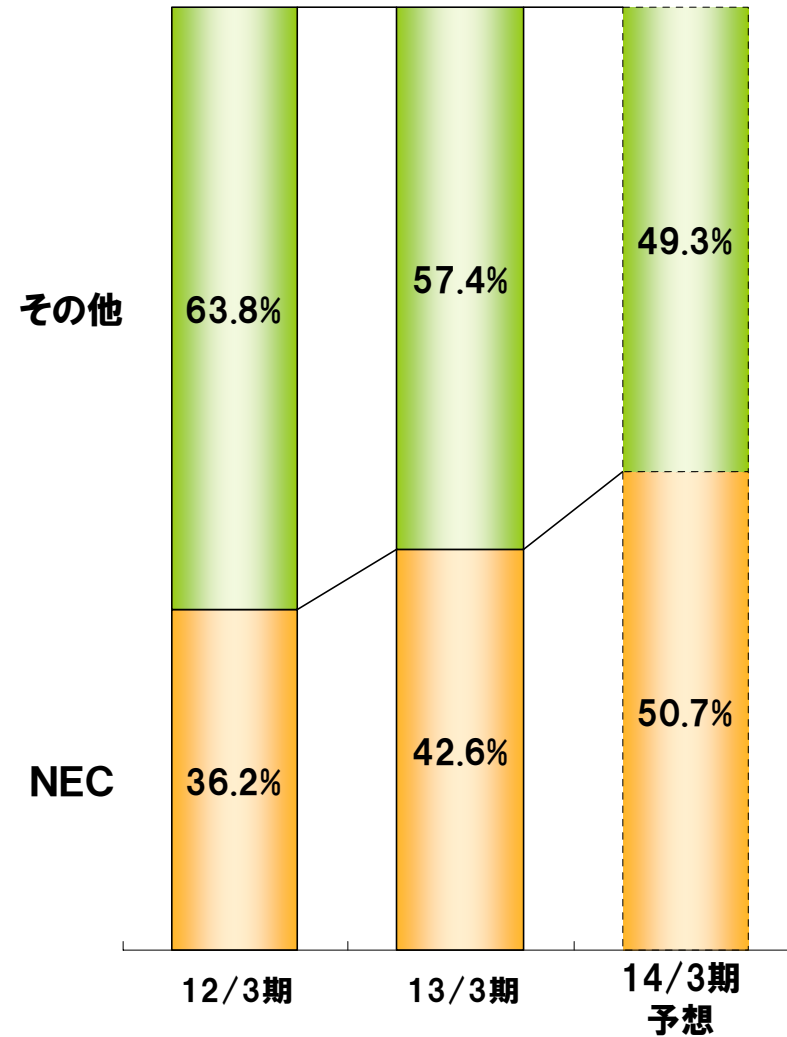
- ハード:組み込みシステム、公共などが増加
- ノンハード:着実に伸長

※ ( )は前期比

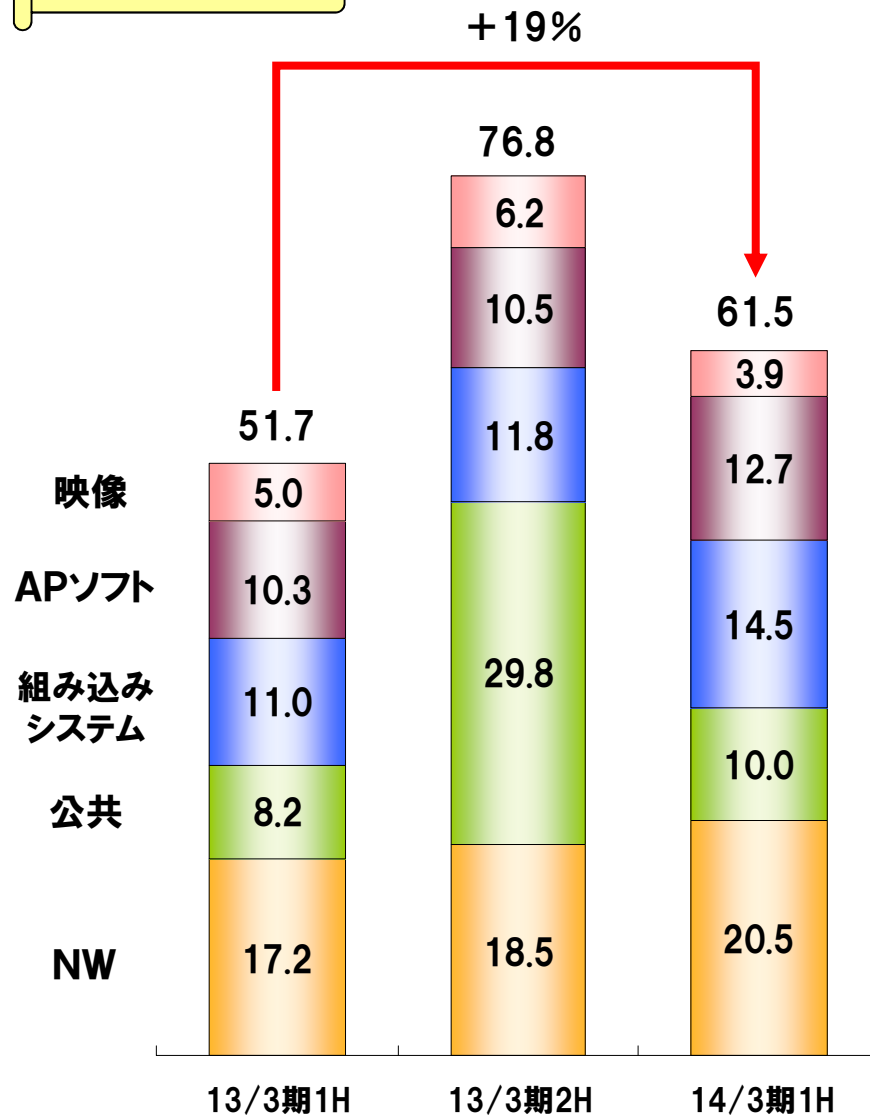


仕入先別売上高構成比

- 14/3月期予想はNEC比率が50%を超える



半期売上高



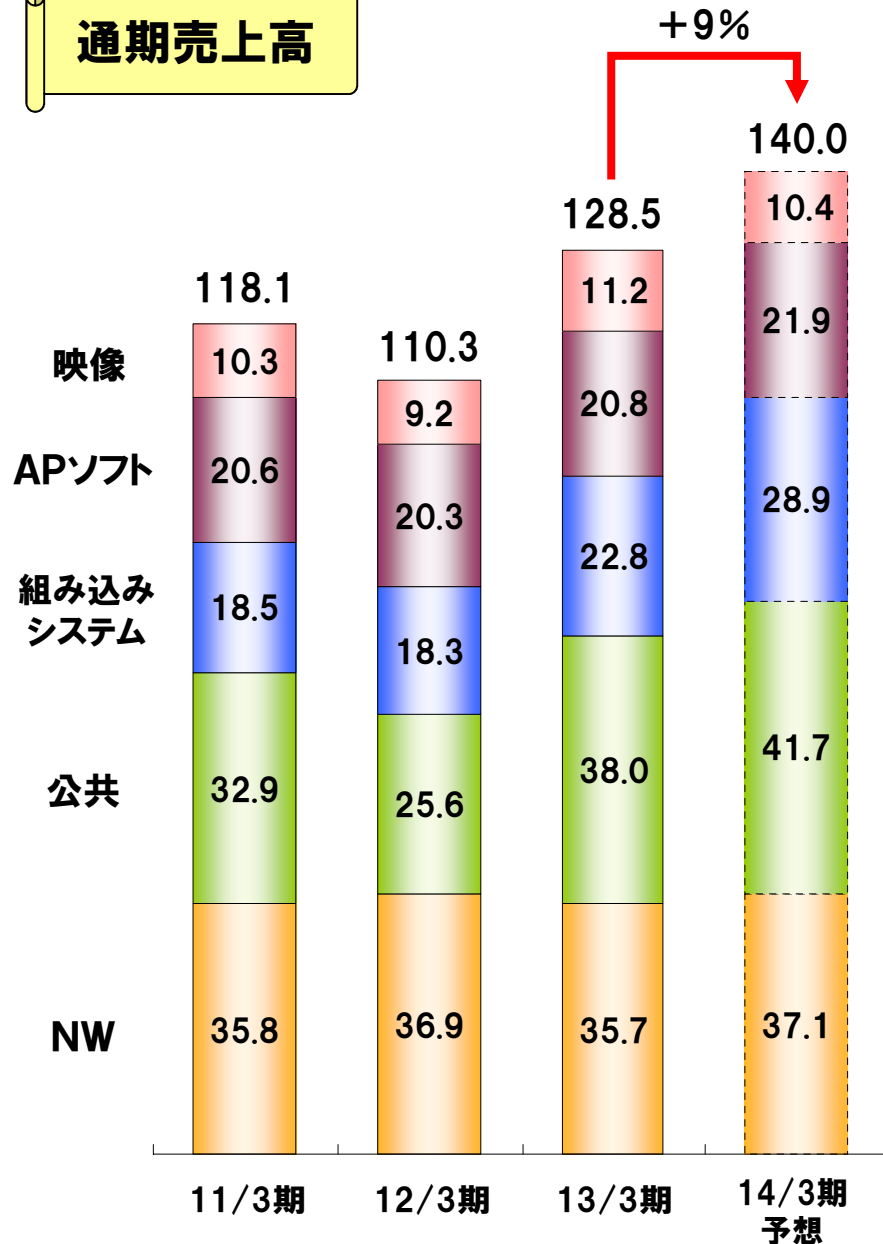
【前年同期比増減内容】

- NW関連(NW、公共、組み込みシステム、AP)
  - NWは民間企業向けインフラ関連が増加
  - 公共向けは消防防災が減少も官公庁向け増加
  - 組み込みシステムはサーバー、監視カメラが増加
  - APソフトはSI系の生産管理などが増加
- 映像
  - 送出システム等のシステム案件減少

	14年3月期1H実績	
	13/3期1H比	13/3期2H比
NW	+19%	+11%
公共	+21%	▲67%
組み込みシステム	+32%	+23%
APソフト	+23%	+21%
映像	▲21%	▲37%

※APソフト:アプリケーションソフト

通期売上高



【前期比増減内容】

- NW関連(NW、公共、組み込みシステム、AP)
  - NWは民間企業向けインフラ関連が増加
  - 組み込みシステムはサーバー、監視カメラが増加
  - 公共向けは官公庁/消防防災とも増加
  - APソフトはSI系の販売/生産管理などが増加
- 映像
  - 送出システム等のシステム案件減少

	前期比
NW	+4%
公共	+9%
組み込みシステム	+27%
APソフト	+5%
映像	▲7%

※APソフト:アプリケーションソフト